



運営委員長
あわら市観光協会
美濃屋 啓晶さん

今後への基礎作りに
これまででは短期間のお祭りを開催してきた周年祭でしたが、今回の130周年祭は、これからのあわら温泉を盛り上げる礎となるよう、今後につながる周年祭にしたいと考えています。

多くの団体が共に開湯130周年祭を盛り上げようとしています。あわら市には、観光やまちの活性化を目的として活動する団体がたくさんありますが、お互いのことをよく知らなかったということが本音です。さまざまな団体が連携して一つのイベントを作り上げ、また相互に情報発信していくことで、ここからさらに良いものが生まれていけばと期待しています。

地元を誇りを持ってほしい

あわらにはいいまちです。子どもたちも誇りにしてほしいです。



▲ 130周年祭のロゴは「つながり」をイメージ。四角い枠には、イベントでコラボする団体名が入ります。

芸妓の手おどり (開湯 70 周年祭)



明治の引札



芦原大火の跡 (昭和 31 年)



メインストリート (大正 3 年)



温泉発祥地



つなげる思い 伝える思い
新しい魅力を創る周年祭に

130周年祭の運営委員長である美濃屋啓晶さんに、130周年祭への意気込みや後世に伝えたい思いについてお聞きしました。

今年は 130 日間にわたって開催!

あわら温泉
開湯 130 周年祭
8月6日(木)~12月13日(日)
ツナガル そして ツタエル



130年のツナガりに感謝し、その想いを後世にツタエルために、カタチにして発信する。感謝と期待が膨らむ130日間が遂に始まる!

あわら温泉の歴史

あわらで初めて湯が出たのは、明治16年のこと。この年は平年と比べて雨が降らず、全国的にも干ばつで不作続きでした。このため、堀江十楽の一人の農民がかんがい用の水を求めて、水田に掘抜井戸(ホンノケ)を掘ったところ、翌日、約80度の温泉が湧き出てきました。村人は喜んで、掘立小屋を作り、くさまきの桶を設置し、温泉に入っていました。

明治17年には、「十楽温泉」と呼ばれ、遠方からも人々が温泉を求めてやってきてにぎわい、次々と温泉宿が開業しました。

その後、昭和23年の福井大震災や昭和31年の芦原大火など度重なる災害に見舞われますが、住民あがての復興への努力が実り、今日では、近代的な旅館が立ち並ぶ温泉街となりました。

温泉ボウリング (大正 8 年)



120周年祭



現在の芦原温泉街

開湯から130年を迎えて

明治16年にあわら温泉が発見されてから130年。あわら温泉では、温泉の恵みに感謝するため、これまで10周年ごとに記念の祭典を開催してきました。

その130周年の祭典をいよいよ今年開催します。北陸新幹線金沢開業で現在北陸地方の注目度は抜群。全国からの熱い視線を受けながら、熱気に満ちた130日間がいま幕を切ります。

つながり、伝える

130周年のテーマは、あわらを盛り上げようという熱い思いを持つ者同士がつながり、あわらの魅力を後世に伝えていくこと。そして、この勢いを形にして5年後、10年後も継続していけるイベントに磨き上げることで、地域の魅力や価値を高めることを目指しています。

▼会議はいつもにぎやか。活発に意見を交わし合っています。



130日間のイベント

130周年を記念して130日間イベントを開催。恒例の「湯かけまつり」のほか、「にぎわい週末広場」や「湯けむり芸術祭」「灯源郷」など新たな企画も行い、にぎやかに記念の年を祝います。

始

オープニング式典
あわら
よしみや
酔宮
ここから始まる
130日間

とき 8月6日(木)、7日(金)
18時~22時
ところ あわら湯のまち広場

130周年祭のオープニングセレモニー「あわら酔宮」を開催します。懐かしの音楽を聴きながら、あわら温泉の芸妓によるピアガーデンや焼き鳥の出張販売など、あわらの夜に酔いしれながら130周年祭の始まりを祝いましょう。